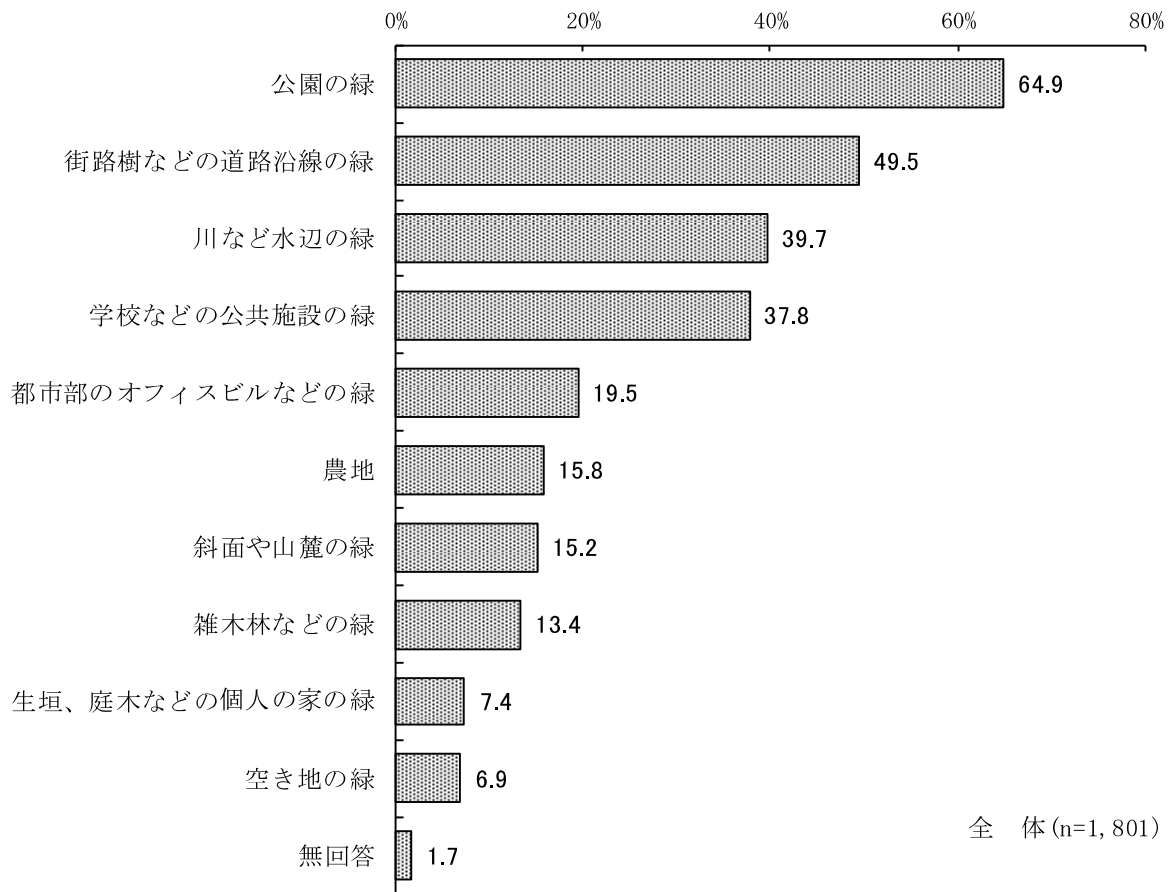


1. 都市緑化、身近な公園について

(1) 今後、増やしたり、守ったりすべき緑について

問1 身近にある緑において今後、増やしたり、守ったりすべき緑は何でしょうか。
(〇は3つまで)



—— 「公園の緑」を増やしたり、守ったりすべきとの意見が最も多い ——

【全体結果】

今後、増やしたり、守ったりすべき緑（複数回答）については、「公園の緑」（64.9%）の割合が最も高い。以下「街路樹などの道路沿線の緑」（49.5%）が約5割、「川など水辺の緑」（39.7%）と「学校などの公共施設の緑」（37.8%）が3割台で続いている。

【属性別結果】（図 1-1 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「公園の緑」については、西蒲区（71.4%）の割合が高くなっている。

② 性別

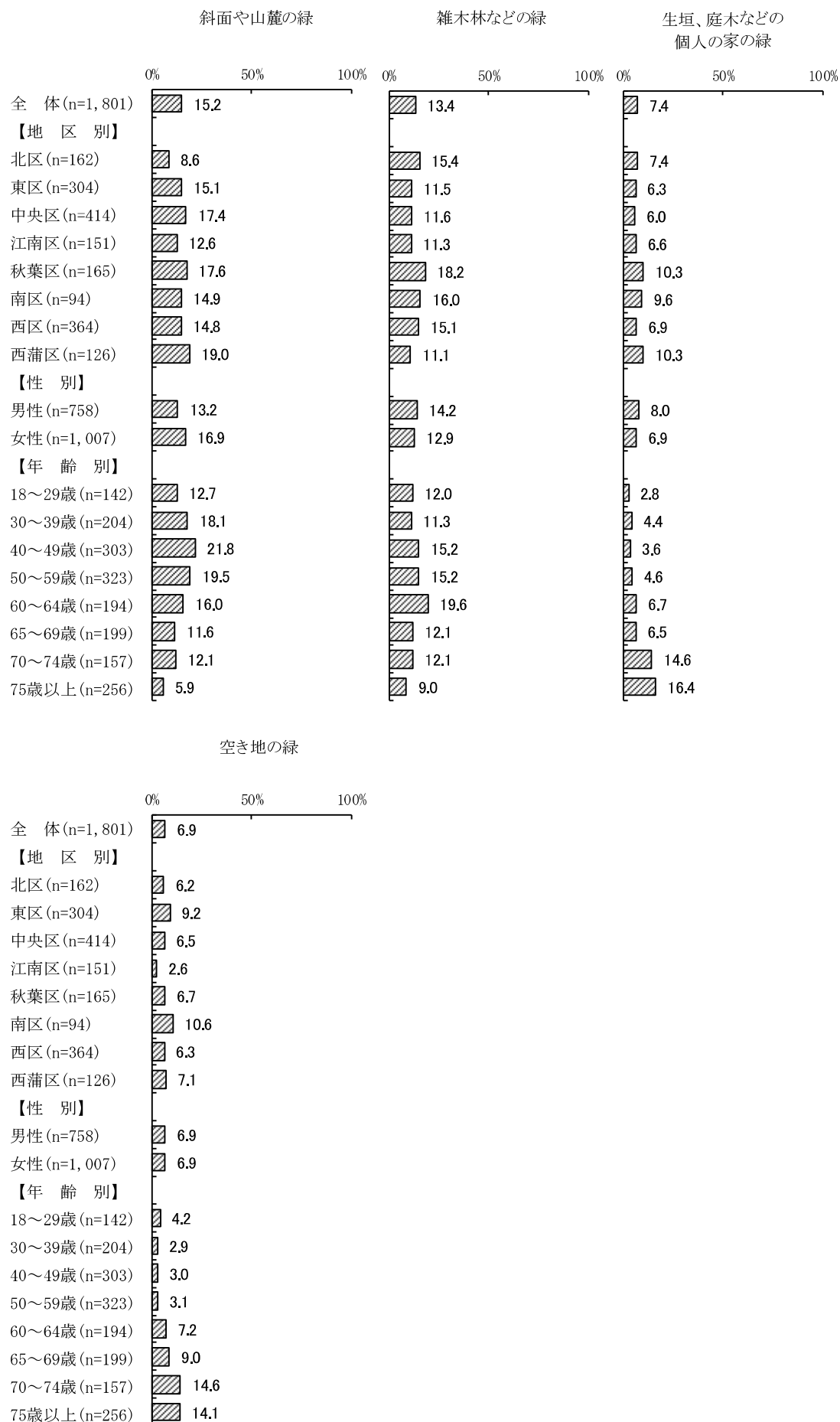
「川など水辺の緑」の割合は、男性（45.5%）の方が女性（35.8%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

「街路樹などの道路沿線の緑」の割合は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、60歳以上では5割台となっている。

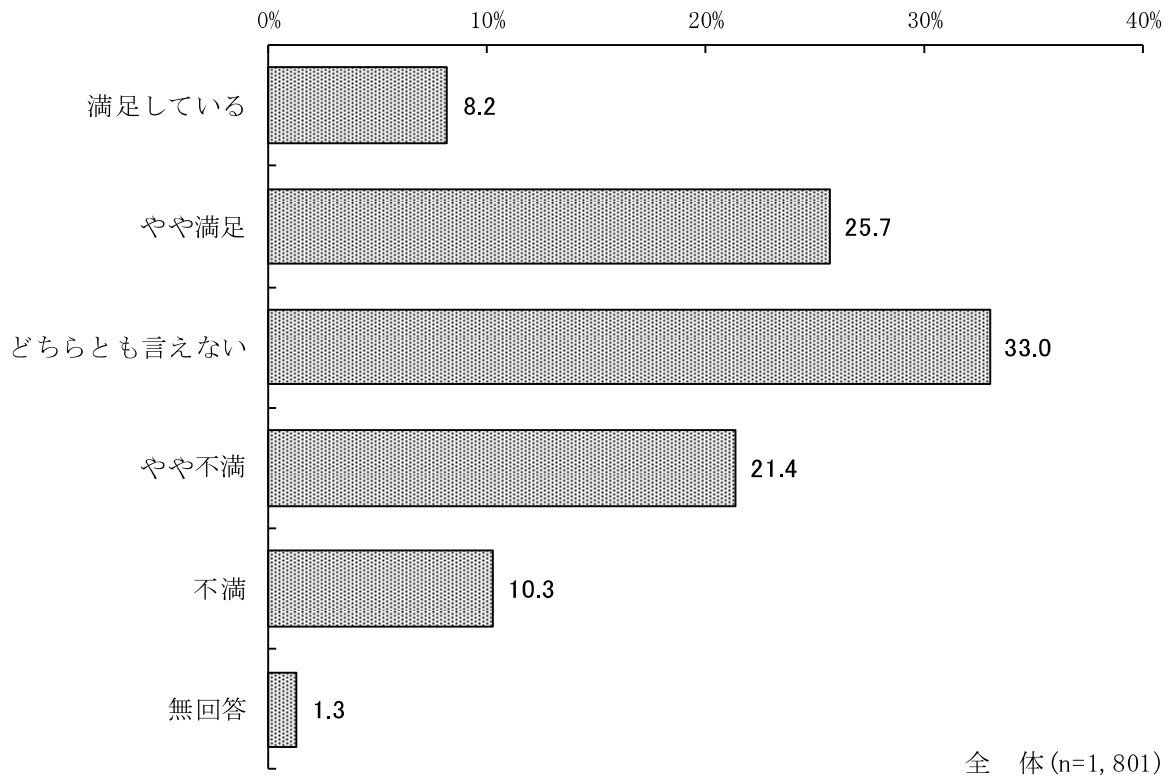
また、「川など水辺の緑」と「農地」の割合は18～29歳（それぞれ52.1%、28.2%）が高く、「学校などの公共施設の緑」は30代（42.6%）が、「斜面や山麓の緑」は40代（21.8%）が、他年齢層よりも高くなっている。

図1-1 今後、増やしたり、守ったりすべき緑について（地区別／性別／年齢別） 2/2



(2) 市街地内での緑の量について

問2 あなたは、新潟市の「市街地内（まとまった農地がない場所）」での緑の量について次のうちどのように感じていますか。
ここでの緑とは、問1の回答項目のような緑について伺っております。
(〇は1つだけ)



市街地内での緑の量について『満足』が3割を超えている

【全体結果】

市街地内での緑の量については、「満足している」(8.2%)、「やや満足」(25.7%)で両者を合計した『満足』計が3割台(33.9%)である。一方、「やや不満」(21.4%)と「不満」(10.3%)を合計した『不満』計も3割台(31.7%)である。

さらに、「どちらともいえない」も3割台(33.0%)でみられる。

【属性別結果】（図 1-2 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「どちらとも言えない」については、北区（44.4%）の割合が最も高くなっている。

また、『満足』計の割合は江南区（37.7%）と秋葉区（37.0%）が高く、3割台となっている。一方、『不満』計の割合は、中央区（37.7%）が3割台と高くなっている。

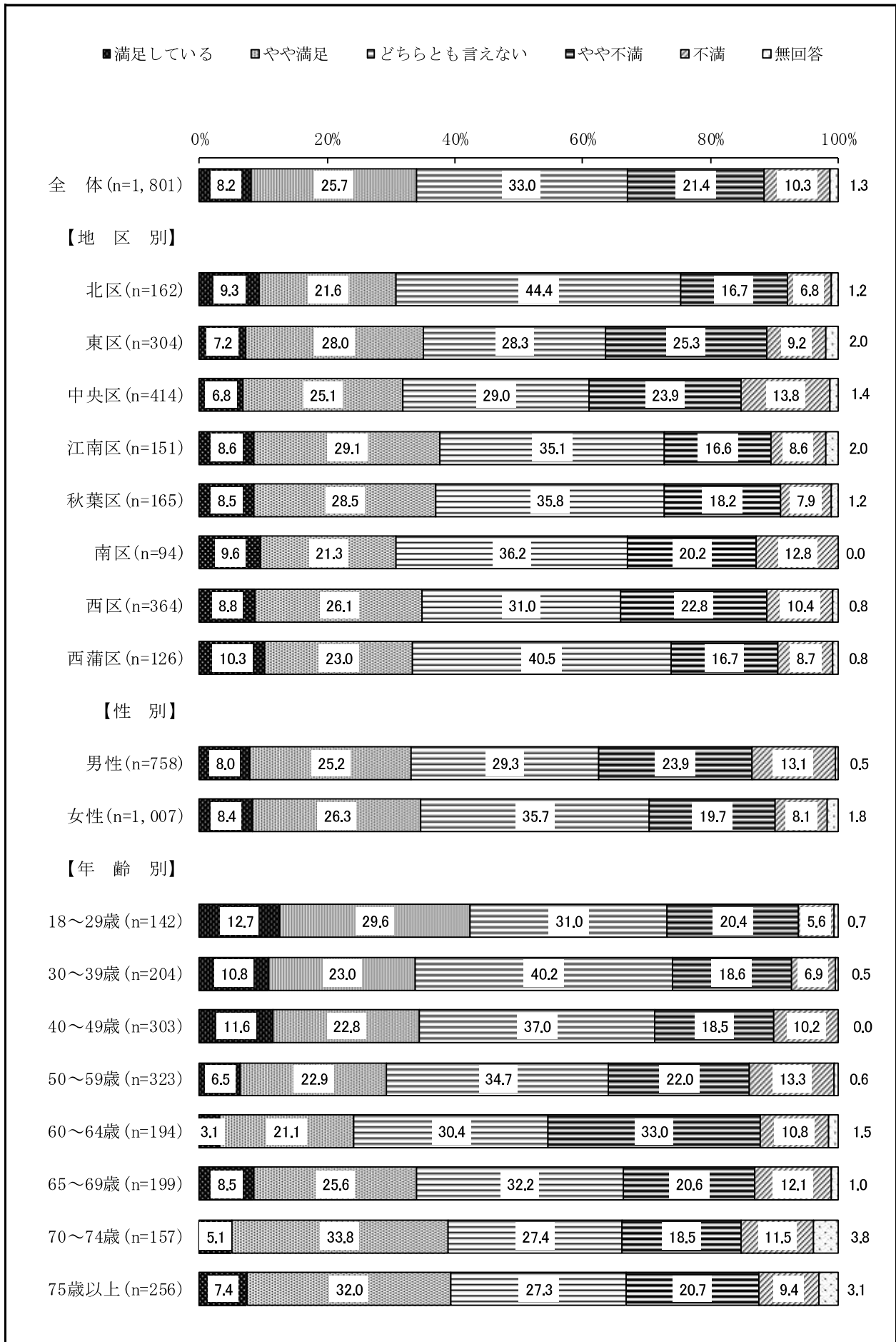
② 性別

『不満』計の割合は、男性（37.0%）の方が女性（27.8%）よりも高くなっている。

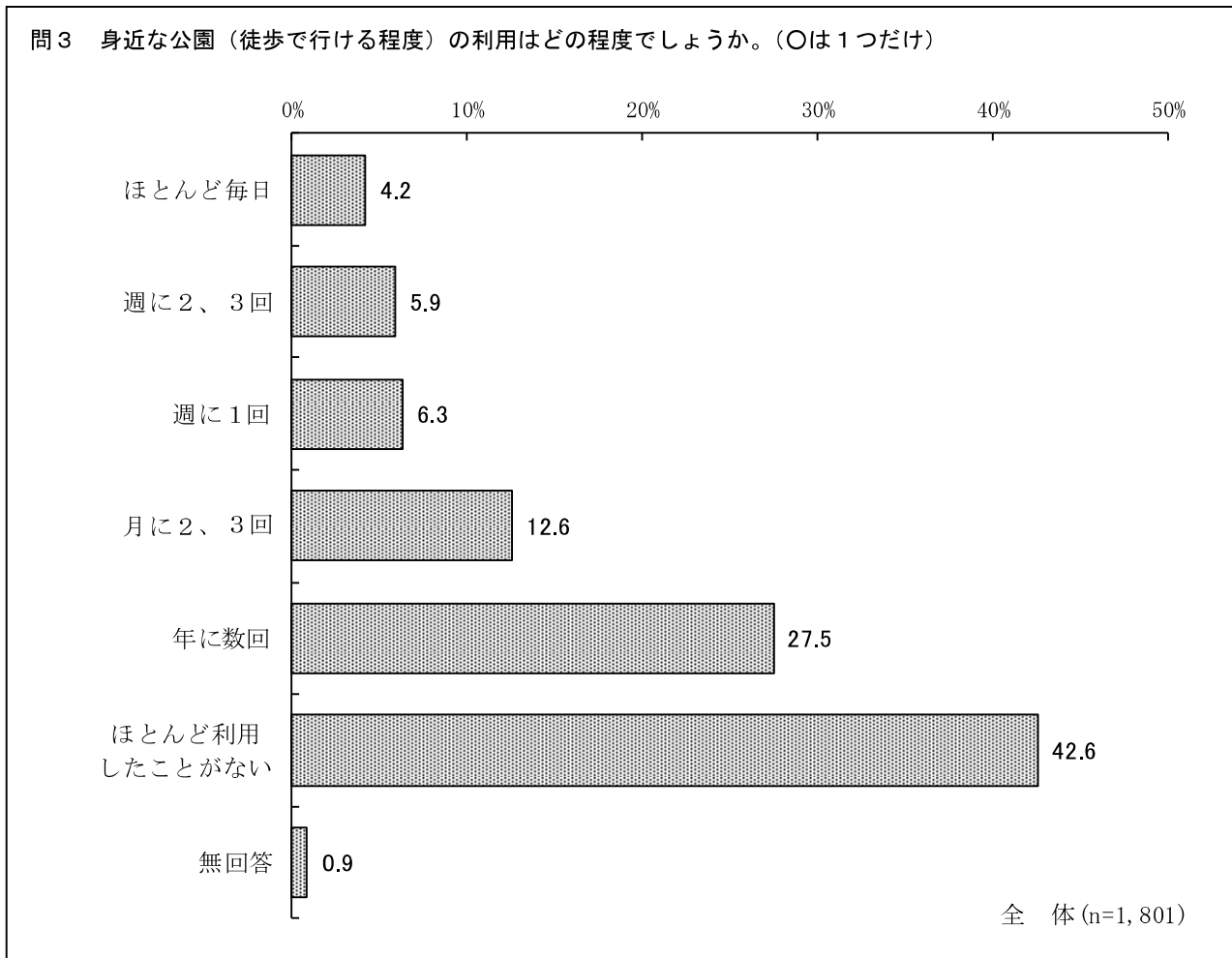
③ 年齢別

『満足』計の割合は、18～29歳（42.3%）が最も高く、4割を超えている。「どちらとも言えない」の割合は、30代（40.2%）が最も高くなっている。『不満』計の割合は、60～64歳（43.8%）が最も高く、4割を超えている。

図1-2 市街地内での緑の量について（地区別／性別／年齢別）



(3) 身近な公園の利用状況



「ほとんど利用したことがない」が最も多い

【全体結果】

身近な公園の利用状況については、「ほとんど利用したことがない」(42.6%)が最も多い。以下、「年に数回」(27.5%)、「月に2、3回」(12.6%)、「週に1回」(6.3%)、「週に2、3回」(5.9%)、「ほとんど毎日」(4.2%)となっている。

【属性別結果】(図1-3参照)

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「ほとんど利用したことがない」については、南区(56.4%)の割合が最も高くなっている。

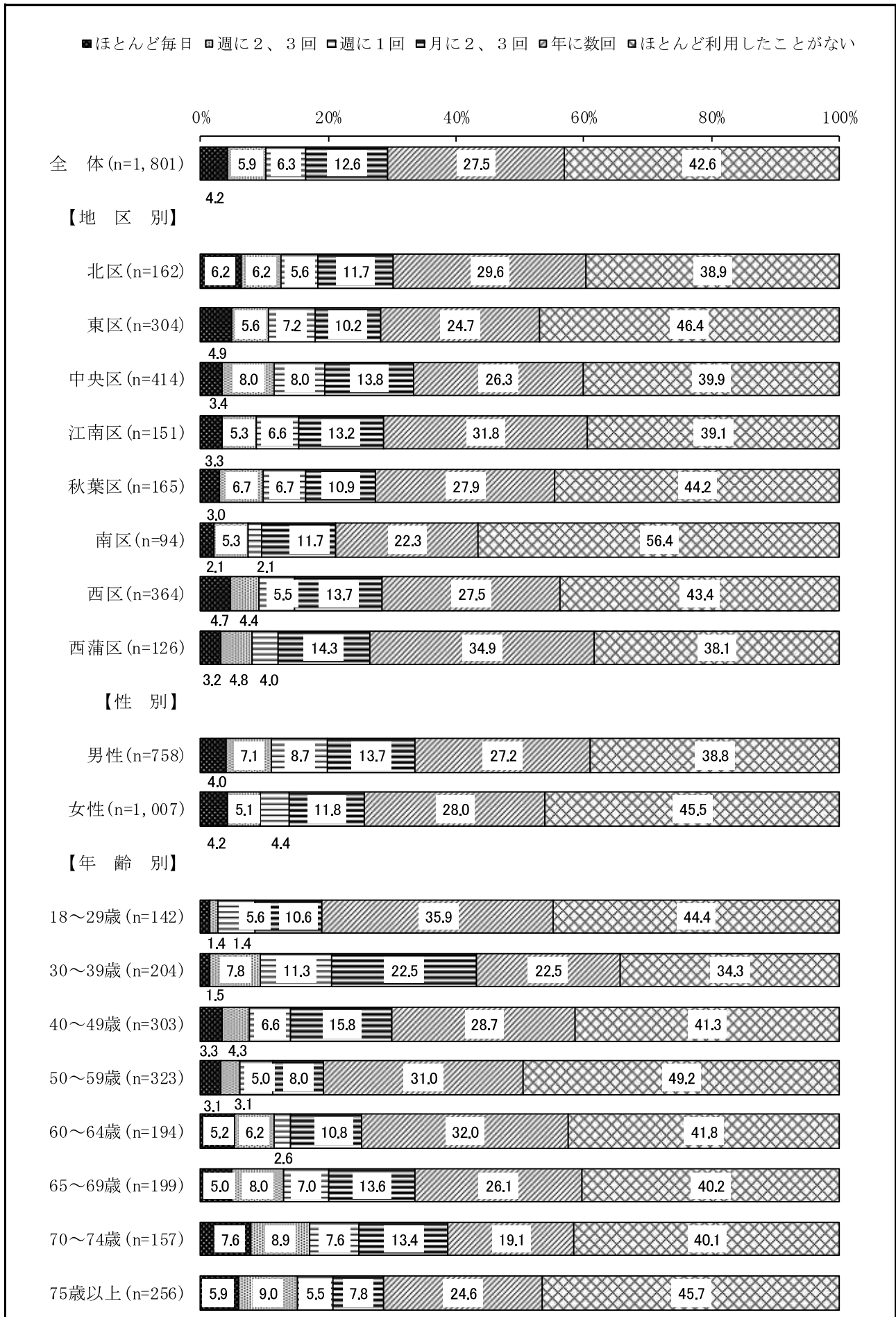
② 性別

「ほとんど利用したことがない」の割合は、女性(45.5%)の方が男性(38.8%)よりも高くなっている。

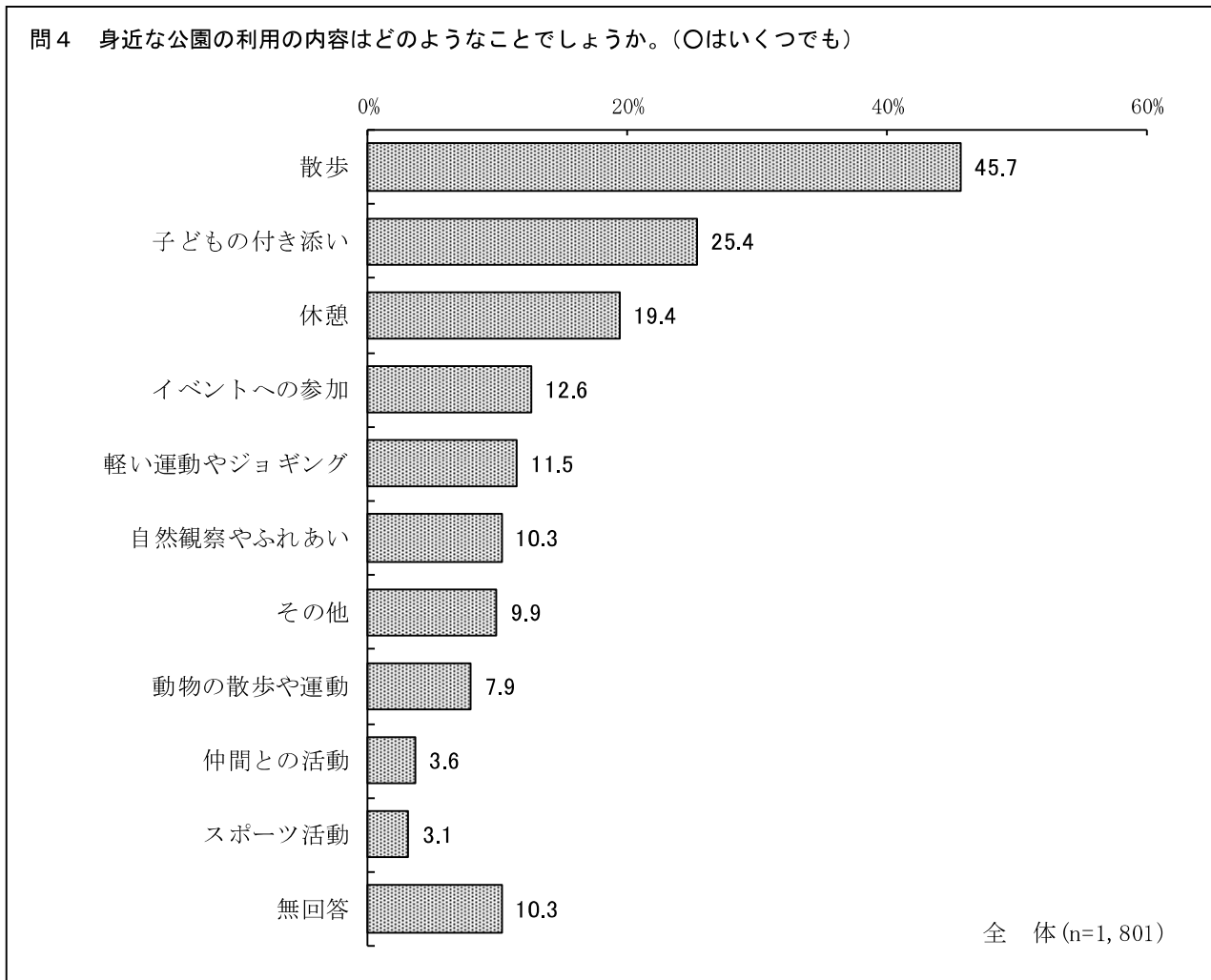
③ 年齢別

「ほとんど利用したことがない」の割合は、50代(49.2%)では約5割を占めている。「年に数回」の割合は、18~29歳(35.9%)が最も高くなっている。

図1-3 身近な公園の利用状況（地区別／性別／年齢別）



(4) 身近な公園の利用内容



「散歩」で利用する人が最も多い

【全体結果】

身近な公園の利用内容については、「散歩」(45.7%)の割合が最も高い。以下、「子どもの付き添い」(25.4%)が2割台、「休憩」(19.4%)、「イベントへの参加」(12.6%)、「軽い運動やジョギング」(11.5%)、「自然観察やふれあい」(10.3%)が1割台で続いている。

【属性別結果】(図1-4参照)

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「散歩」については、中央区(54.3%)の割合が最も高く、東区(40.5%)の割合が最も低くなっている。

② 性別

「休憩」の割合は、男性(23.4%)の方が女性(16.8%)よりも高くなっている。

③ 年齢別

「散歩」の割合は、18~29歳(54.2%)、65歳~69歳(51.8%)と75歳以上(53.1%)で5割台と高く、40代(37.0%)で低くなっている。

「子どもの付き添い」の割合は、30代(52.5%)が最も高く、5割台となっている。

図1-4 身近な公園の利用内容（地区別／性別／年齢別） 1/2

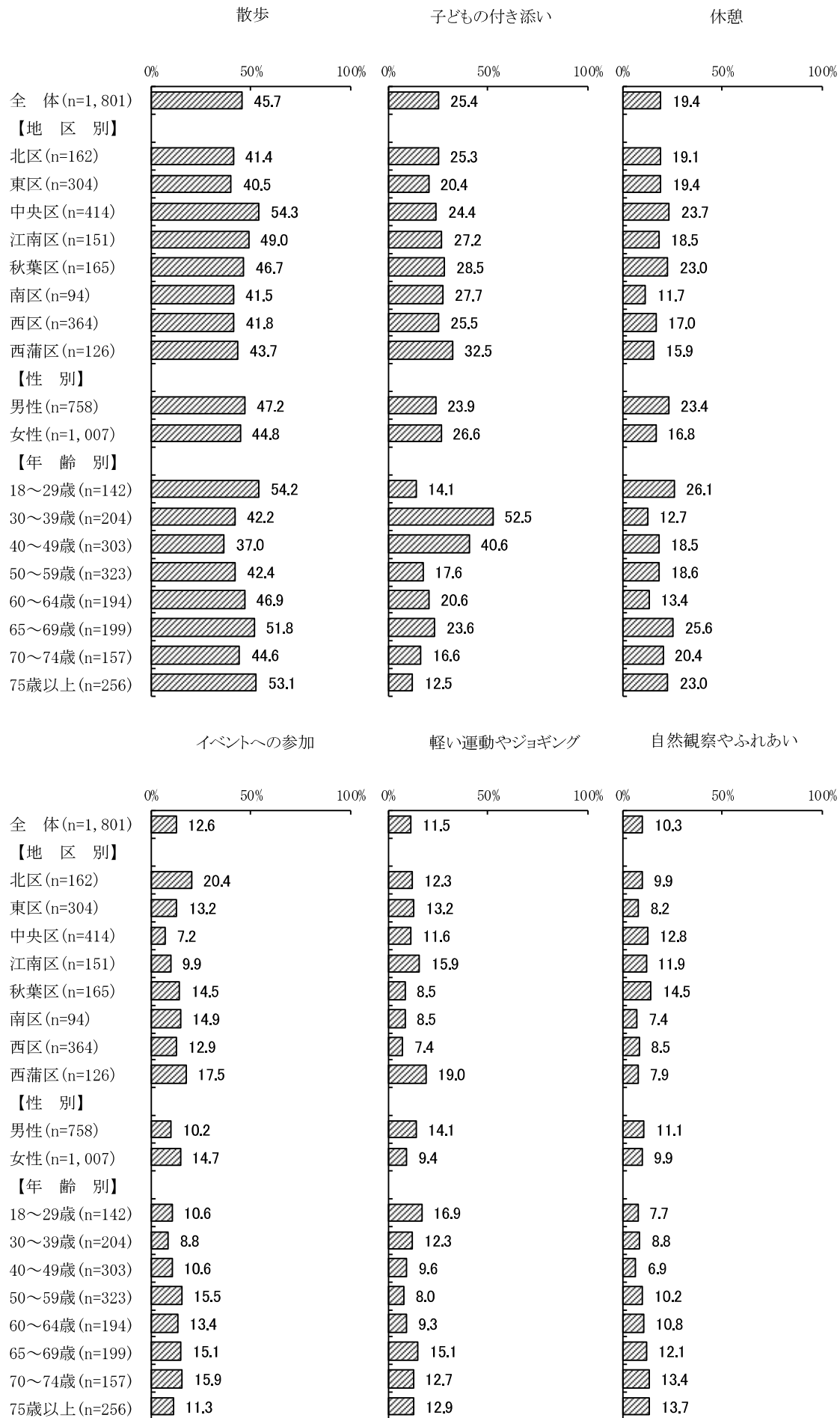
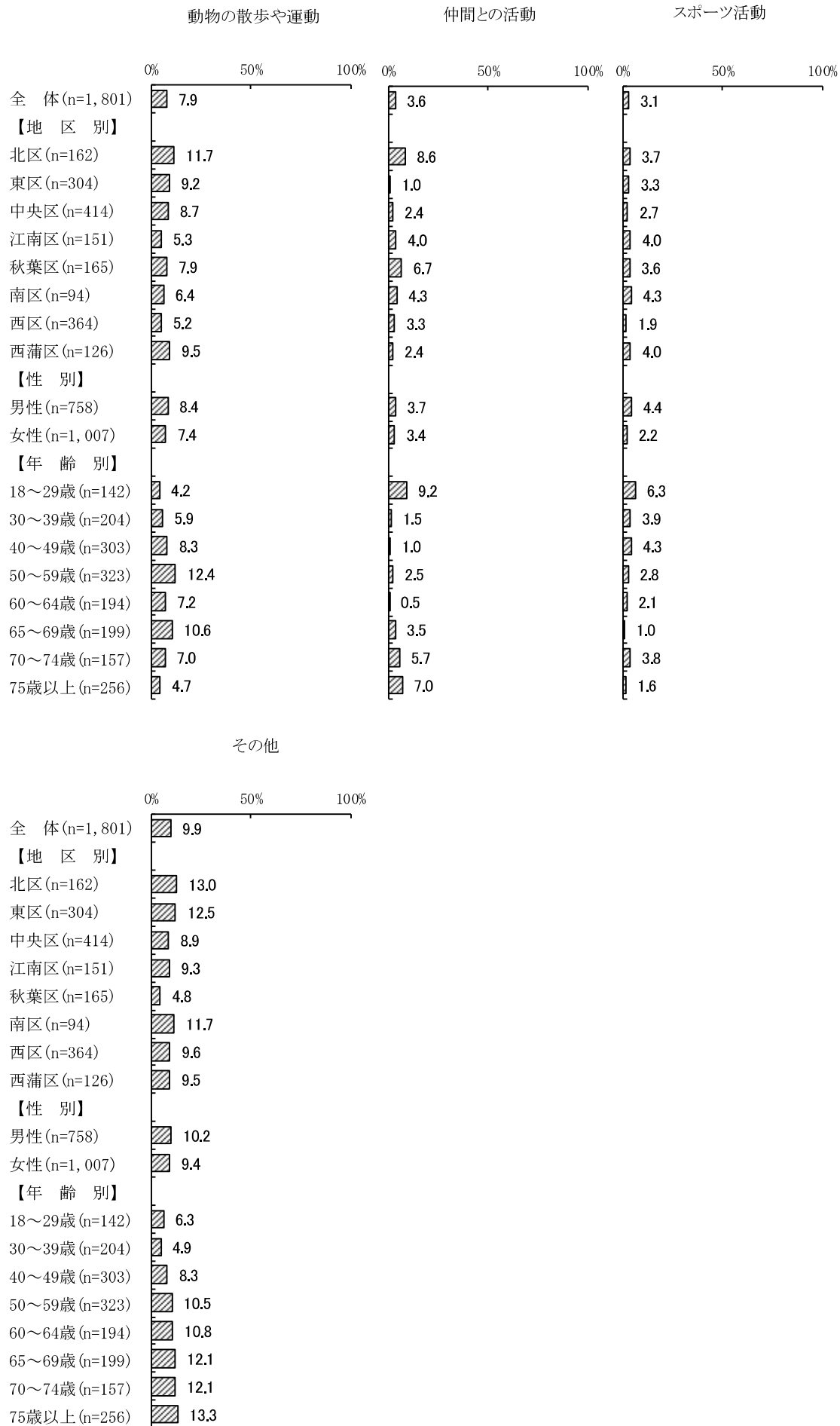
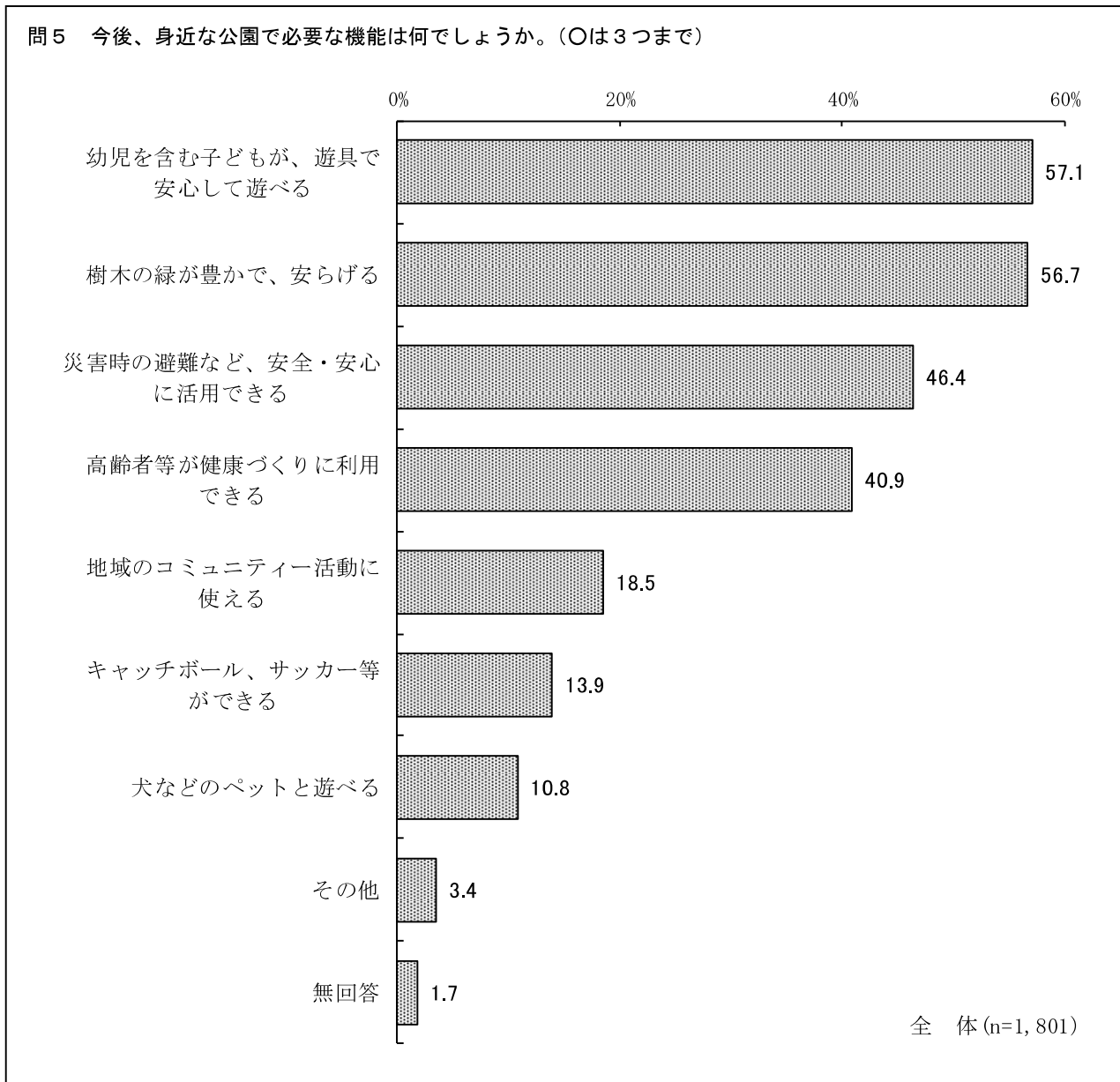


図1-4 身近な公園の利用内容（地区別／性別／年齢別） 2/2



(5) 今後、身近な公園で必要な機能



— 「幼児を含む子どもが、遊具で安心して遊べる」「樹木の緑が豊かで、安らげる」が5割台 —

【全体結果】

今後、身近な公園で必要な機能については、「幼児を含む子どもが、遊具で安心して遊べる」(57.1%)の割合が最も高く、「樹木の緑が豊かで、安らげる」(56.7%)が僅差で続く。以下、「災害時の避難など、安全・安心に活用できる」(46.4%)、「高齢者等が健康づくりに利用できる」(40.9%)が続いている。

【属性別結果】（図 1-5 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「幼児を含む子どもが、遊具で安心して遊べる」については、北区（62.3%）、西蒲区（62.7%）、西区（61.5%）の割合が高く、6割を超えている。

② 性別

「幼児を含む子どもが、遊具で安心して遊べる」の割合は、女性（60.1%）の方が男性（53.6%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

「幼児を含む子どもが、遊具で安心して遊べる」「キャッチボール、サッカー等ができる」は30代（それぞれ78.9%、28.4%）と18～29歳（それぞれ71.1%、27.5%）の割合が、それぞれ高くなっている。また、「高齢者等が健康づくりに利用できる」は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、70歳以上では5割台となっている。

図1-5 今後、身近な公園で必要な機能について（地区別／性別／年齢別） 1/2

